❶ 第28155号　昭和20年11月13日第3種郵便物認可　MAINICHI　2017年（平成29年）3月24日　金曜日　（日刊）

毎日小学生新聞

きょうの紙面

■楠木誠一郎の日本史探偵マイ＆ショウ［東京裁判］……❺
■妖怪穴［ワクド憑き］……❻
■4月のこよみ……❼
■りゅうちゃんのうちなーぐち［ハマウリ］❼
■小学生の進路・進学……別刷りA～D

毎日小学生新聞編集部
おたより　〒100-8051（住所不要）
ファクス　03・3212・2591
メール　maishou@mainichi.co.jp
電話　03・3212・3274（編集）
0120・468・012（購読について）
毎日新聞
発行所　毎日新聞社©
東京本社 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
定価 1か月1580円（本体1463円、消費税117円）・1部60円

❹

大人の新聞に載っているニュースは難しいことばかりで、私たちには関係ない……。本当にそうでしょうか？　3人の大人に話を聞きました。まずは、元総務大臣の増田寛也さんと、国連広報センターの根本かおる所長です。

ニュース　無関係じゃない

増田寛也さん

◇プロフィル　1951年、東京都生まれ。95～2007年岩手県知事、07～08年総務大臣を務める。現在、野村総合研究所顧問。東京などの大都市に人が集中し、地方が消滅するかもしれない「極点社会」という現象を明らかにした日本創成会議の座長も務める。

未来を切り開く　ため考える　増田さん

今、ニュースになっている事柄の中には、みなさんの将来に大きな影響を及ぼすものがたくさんあります。

例えば「少子高齢化」という言葉を聞いたことはありませんか？　日本では今、生まれる子どもの数が減る一方、医療の進歩などから、お年寄りが長生きになり、とても増えています。そして総人口が減り始めました。みなさんが社会の中心で働く頃には、1億人を切ります。

日本社会はこれまで、人口増を前提に作られてきました。当然、今のままではうまくいきません。人が減った地域では、鉄道の廃線なども始まっています。働く世代がお年寄りを支える社会保障制度も、今と同じ水準では維持できません。

では、人口減に合わせた社会とは、いったいどんなものなのでしょうか？　そもそも、人口減を止める方法はないのでしょうか？

答えは、すぐには見つかりません。人口問題についていえば、年齢や住んでいる地域など立場によって考え方がさまざまで、全員が賛成とはなりづらいのが現実です。しかし考えることはできます。そして考える材料が新聞にはあります。いろいろな人の意見や関連する出来事、データなどです。

これから国を動かすのはみなさんです。昨年には選挙権年齢が18歳に引き下げられました。新聞を読んで、未来を切り開いてください。

根本かおるさん

◇プロフィル　1963年、兵庫県生まれ。テレビ朝日でアナウンサーや報道記者を務める。アメリカ留学を経て、96～2011年国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）で難民支援に携わる。13年から国連広報センターの所長を務める。

「世界の窓」で　理解を深める　根本さん

私は子どもの頃、自分の好きなジュースを作る会社の株価（株の値段）を、いつも新聞の経済面で見ていました。みなさんもまず、自分の興味のあるところから読んでみるといいのではないでしょうか。

例えばファッションが好きなら、お気に入りの洋服のタグに記された製造国の記事を読んでみる。「なんでこの国で作っているの？」「誰がどうやって作っているの？」と調べてみる。見えてくることが、たくさんあるはずです。経済だけでなく、人権や環境などの問題にも結びつくかもしれません。

世界は今、とても狭くなりました。どの国も単独では成立しません。そして各国には、それぞれの価値観に基づいた考えがあります。ですから国際社会には、白や黒と簡単には決められない事柄がたくさんあります。そんな中で必要になるのは、相手への関心であり、相手の気持ちに寄り添うことです。歴史や文化などを学び、知識を得ることです。日本人から見ると、奇妙に感じることでも、その国の人の置かれた環境などを知っていれば、自然と理解は進むはずです。

私は、新聞は「世界の窓」だと考えます。日本国内はもちろん、世界のあらゆることをまとめて見せてくれます。無理せず、世界への理解を深めてもらえればと思います。

＝2面に続く